

令和6年度 学校評価 アンケート結果

松前町立松前幼稚園

【学校評価の作成について】

1 評価時期 令和6年12月

2 評価方法

質問用紙によるアンケート調査

昨年度の松前・古城両園のを参考に項目と文言を見直した。自由記述については認定化に向けての意見を問うた。

3 調査対象と回収率

保護者41名（全園児）と教職員および学校生活支援員13名、どちらも回収率100%

4 評価基準

4 そう思う	十分達成されている（おおむね80%以上）
3 ややそう思う	ほぼ達成されている（60～80%くらい）
2 あまりそう思わない	取り組んでいるが成果が十分でない（40%～60%くらい）
1 そう思わない	取組が不十分である（40%以下）
0 分からない	

◎：8割以上が肯定 ○：6割以上が肯定 △：6割未満が肯定

5 評価基準

A：目標を達成 B：8割以上達成 C：8割未満の達成

総合評価において、保護者と教職員の評価に差があった場合は低い方の評価とする。

評価にかかわらず、改善策を検討するものとする。

令和6年度 学校関係者評価委員

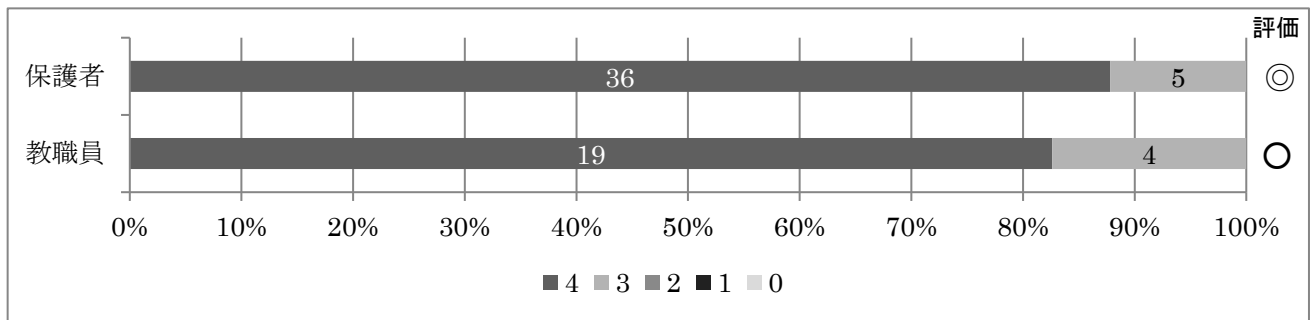
役 職 等	氏 名
元幼稚園長	烏 谷 良 子 様
人権擁護委員	石 丸 幸 子 様
松前小学校 校長	久保田 貴 章 様
地域協力者（更生保護女性会）	山 本 佐津貴 様
松前町子育て支援課 課長補佐	喜 安 祐 子 様
西公民館 館長	仲 島 昌 二 様
松前幼稚園PTA会長	稲 生 佳寿美 様

令和6年度 本園職員

職 名	氏 名	職 名	氏 名
園 長	吉岡友美		
主任教諭	俊成敦美	臨時教諭（5歳児きりん組副担任）	福岡智子
主任教諭（3歳児うさぎ組担任）	渡邊裕月	パート教諭（フリー）	河村知里
主任教諭（5歳児きりん組担任）	大廣美香	幼稚園補助員	橋本早苗
教 諭（4歳児くま組担任）	谷岡梨央	幼稚園補助員	中川奈保子
臨時教諭（4歳児くま組副担任）	白澤由美	学校生活支援員	武智幸
臨時教諭（3歳児うさぎ組副担任）	高城えみこ	学校生活支援員	東正恵

1 教育目標・教育課程

① 園行事の内容や時間を工夫し、適切に実施されていましたか。



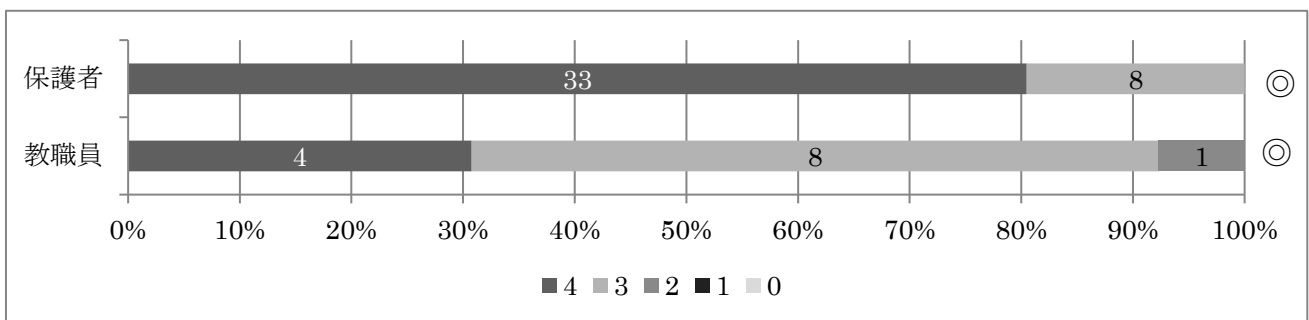
評定
A

どの学年も幼児の実態に合わせた行事を実施できたが、他学年との関わりがやや少なかったと感じる。

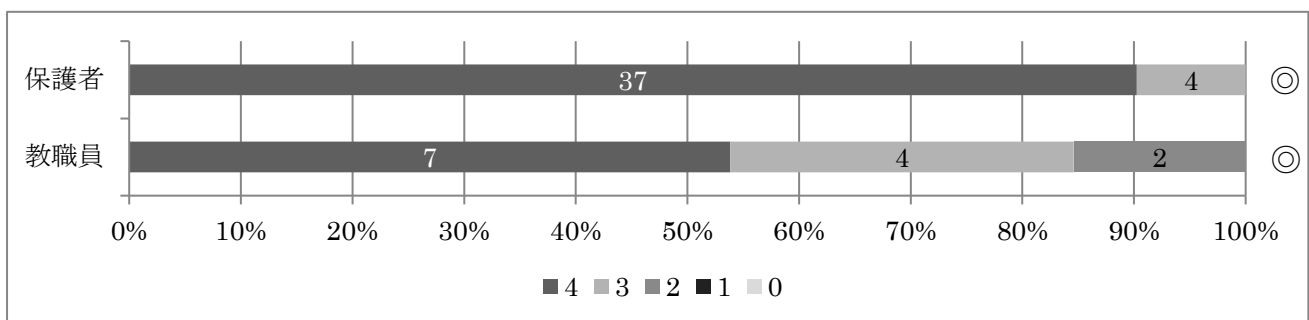
園行事については各担当を中心に内容を検討し、行事を通して季節・伝統・文化を感じ取りながら幼児に何を育てていきたいかを考えてきた。しかし、園で大切にしている『心豊かに遊び込む幼児の育成』を考えると、行事に追われた生活になっているところがある。行事をすればよいのではなく、これまでの育ちとのつながりはどうか、どのような環境を構成するかなど保育について職員間で語り合い、さらなる改善や工夫をしていきたい。

2 保育の取組

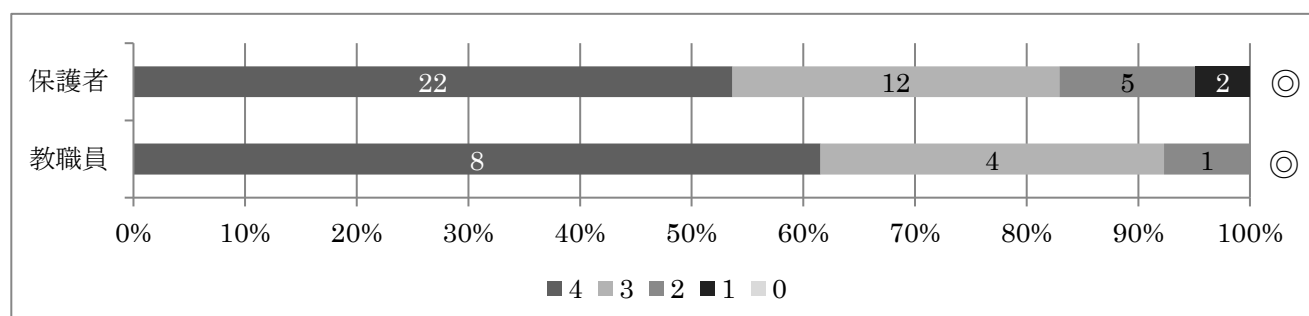
① 子どもさんは幼稚園に行くのを楽しみにし、安心して園生活を過ごしていますか。



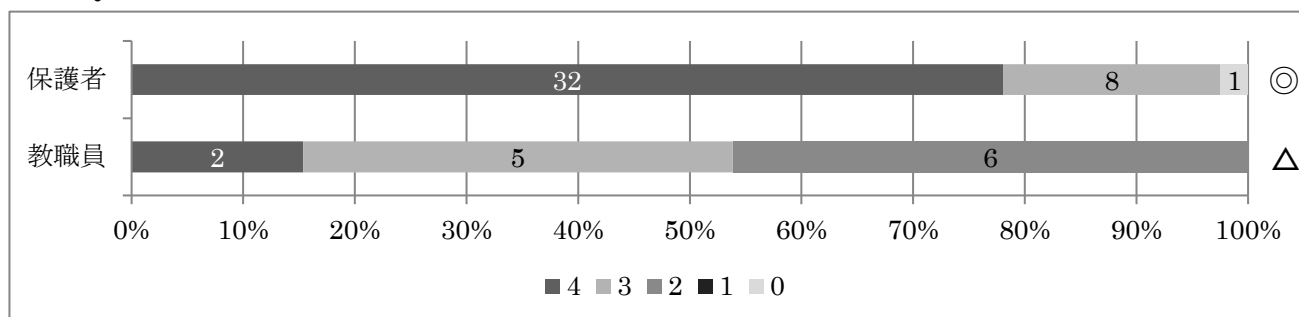
② 子どもさんは、幼稚園で友達と一緒に遊んだり活動したりする楽しさを感じていますか。



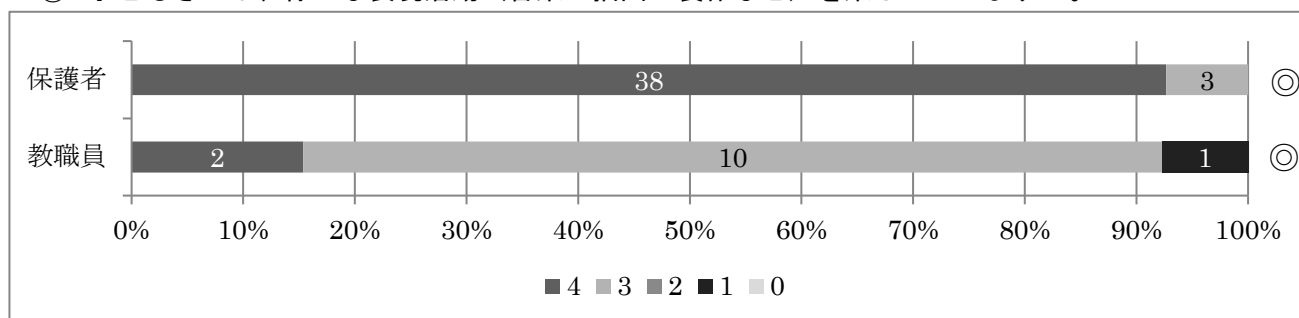
③ 子どもさんは、友達や職員などとあいさつを交わすことができますか。



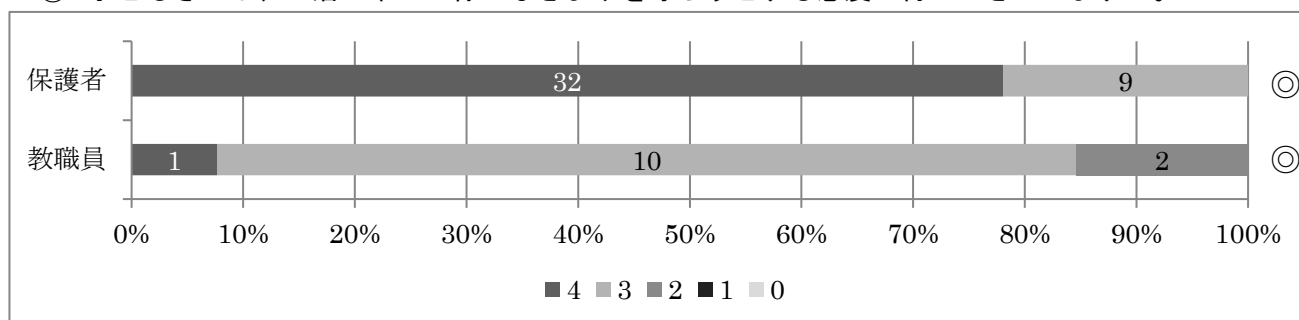
④ 子どもさんは、身近な自然と触れ合う中で生命に気付いたり、優しい気持ちをもったりしていますか。



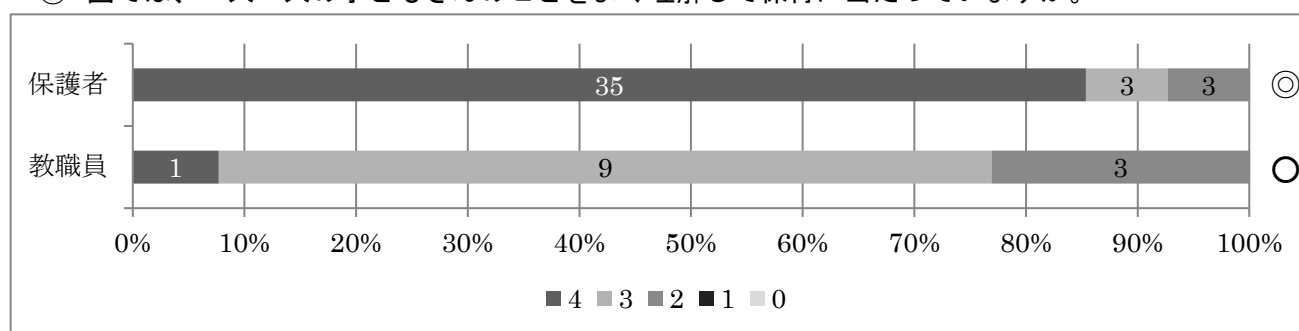
⑤ 子どもさんは、様々な表現活動（音楽・描画・製作など）を楽しんでいますか。



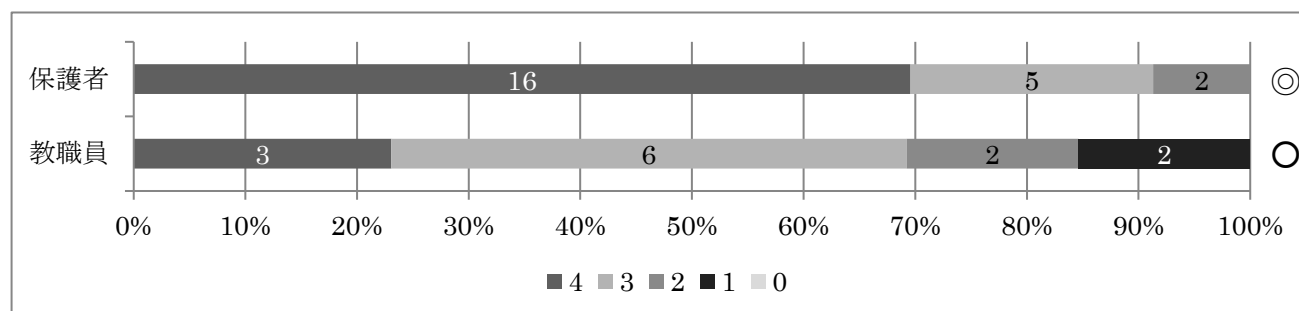
⑥ 子どもさんは、生活の中での様々なきまりを守ろうとする態度が育ってきていますか。



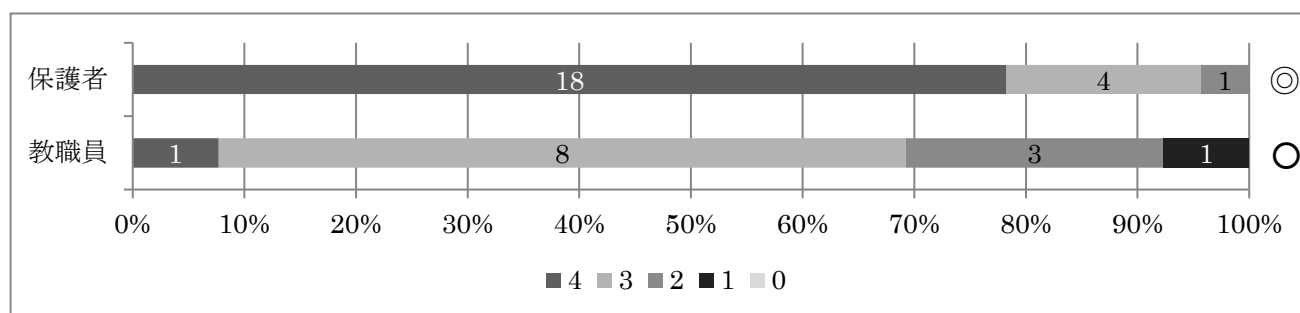
⑦ 園では、一人一人の子どもさんのことをよく理解して保育に当たっていますか。



⑧ 園生活や行事の中で人権や子育てについて、知ったり考えたりすることができましたか。



⑨ 入園から就学までの生活づくりを大切に、学年に応じた活動や遊びが行われていますか。



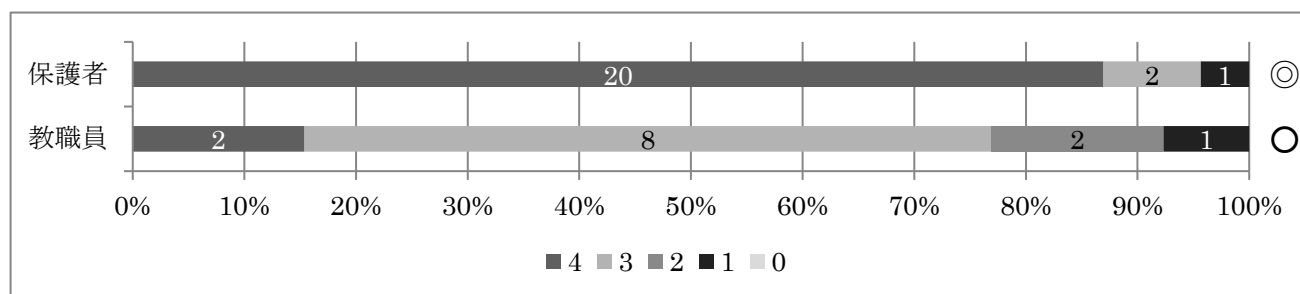
評定
A

教育課程・指導計画に基づき、それぞれの学年の発達に合わせた遊びや活動が展開されているのかと感ずることがあった。特に年長組は就学への期待が膨らむ時期に取り組むとよい活動もあると思う。子どもの興味・関心に応じつつ、課題は何かなどを話し合い、担任・副担任だけでなくフリー教諭も協力しながら生活づくりをしたい。

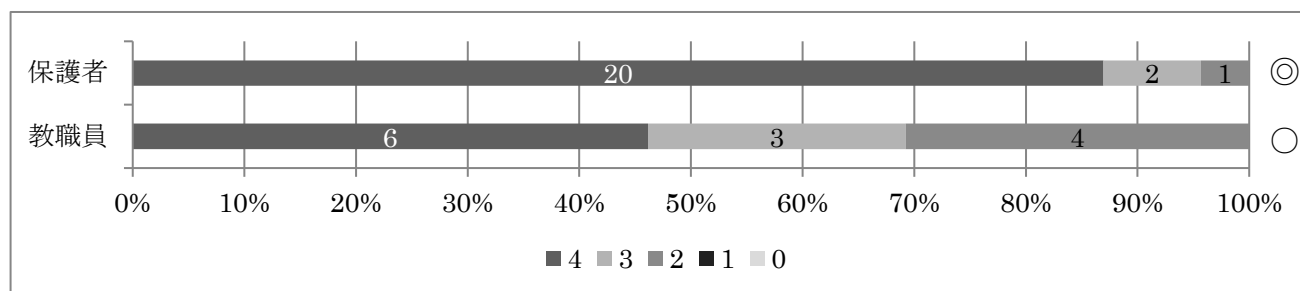
職員数が増えたことで子ども一人一人に関われる時間が増え、手厚い援助ができるようになってきた。一方で、クラス集団で過ごすより少人数で遊ぶ姿が増え、異年齢で関わる場面もあまり見られなくなってきた。それに伴い、友達同士のトラブルも少なくなっている。大人が解決に導くのではなく、相手の思いに触れたり、自分の考えを伝えたりできる関係づくりを大切にしたい。

3 開かれた幼稚園づくり

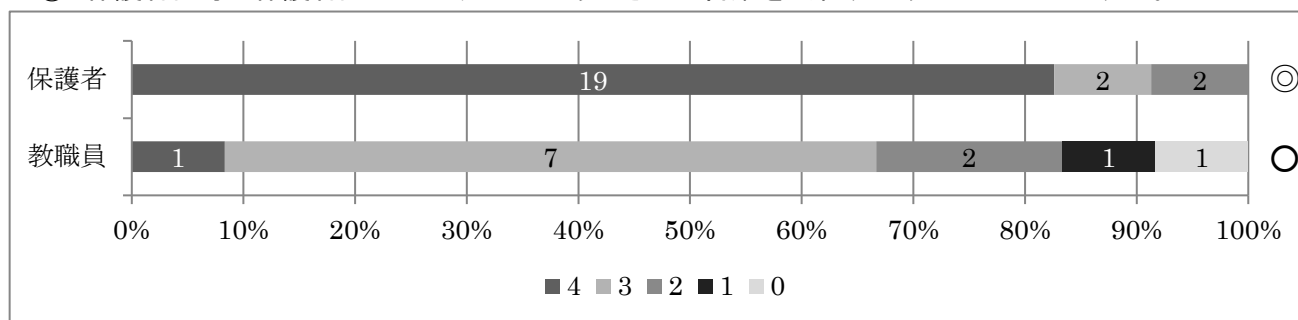
① 職員は子どもさんの様子や育ちなどの相談に応じ、信頼関係づくりに努めていますか。



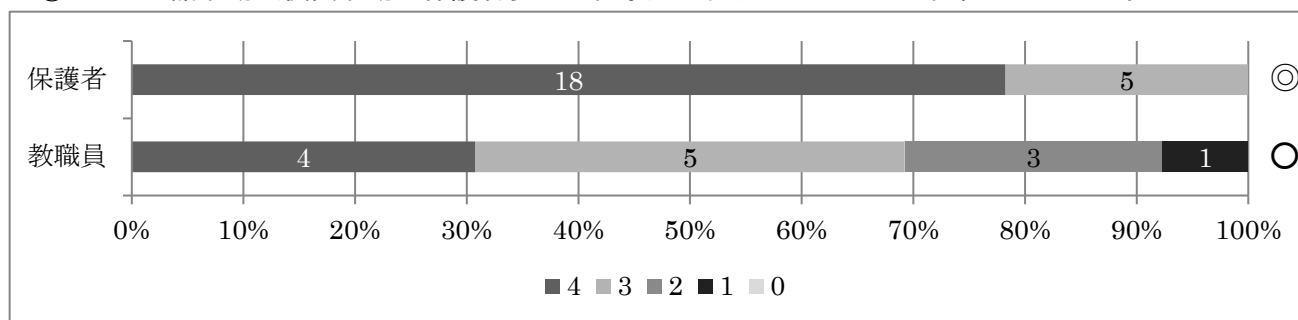
② 園便りやお便りノート・ホームページを通して園や子どもさんの様子が分かるように伝えていますか。



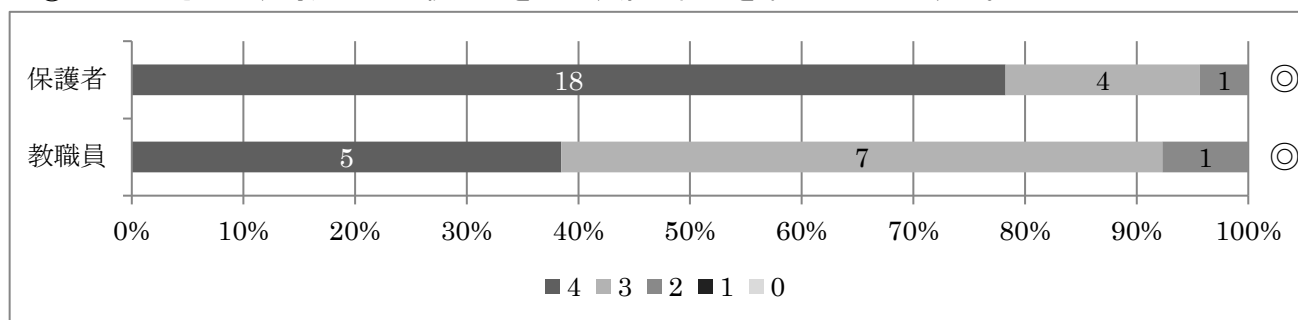
③ 保護者自身が保護者同士や地域の人とあいさつや言葉を交わすよう心がけていますか。



④ P T A 諸活動（役員活動・保護者参加の行事）は状況に応じ適切に行われましたか。



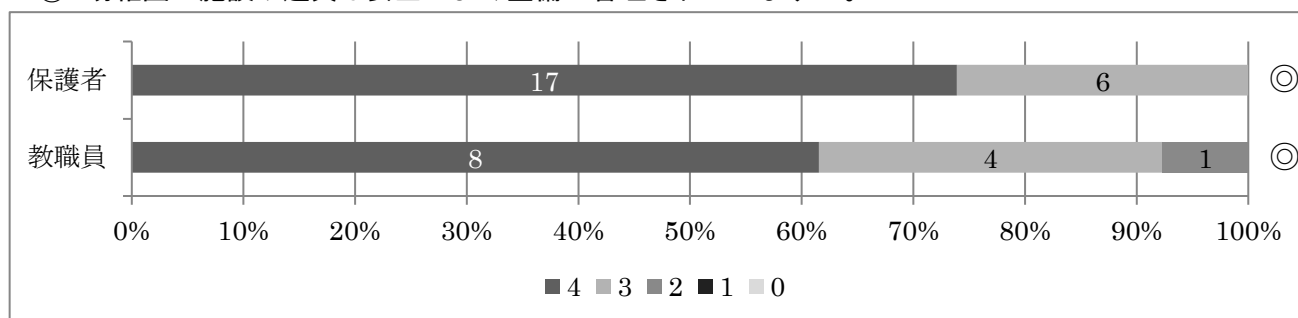
⑤ 子どもさんは、身近な人に親しみをもち、触れ合いを楽しんでいますか。



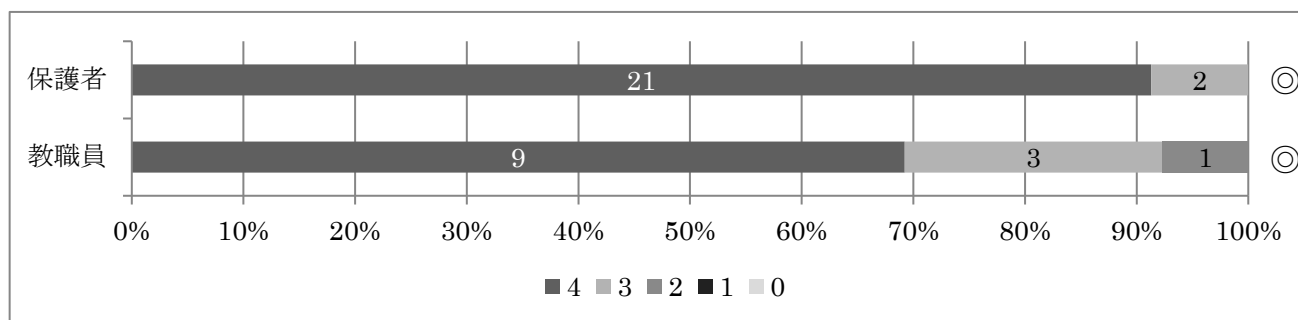
評価 A	町立の小・中・高校生が職場体験等で来園する機会があった。関わりを積み重ねることで親しみの気持ちが生まれ、それを伝える姿が見られた。また、役場や消防署・図書館へ訪れる機会もあり、地域の様々な人と共に生活していることを実感している。 毎月の園便りで園生活の様子を写真掲載してきた。写真の見えづらさがあるが、同じものをホームページに掲載しているため、保護者も見ている。しかし、どのくらいの保護者が見ているのか把握できない。 今年度より導入した等降園打刻システムについては、保護者も気を付けて使用してくれている。他の機能についても職員が使いこなせるようにしていきたい。
-----------------	---

4 園運営（学校安全・学校保健）

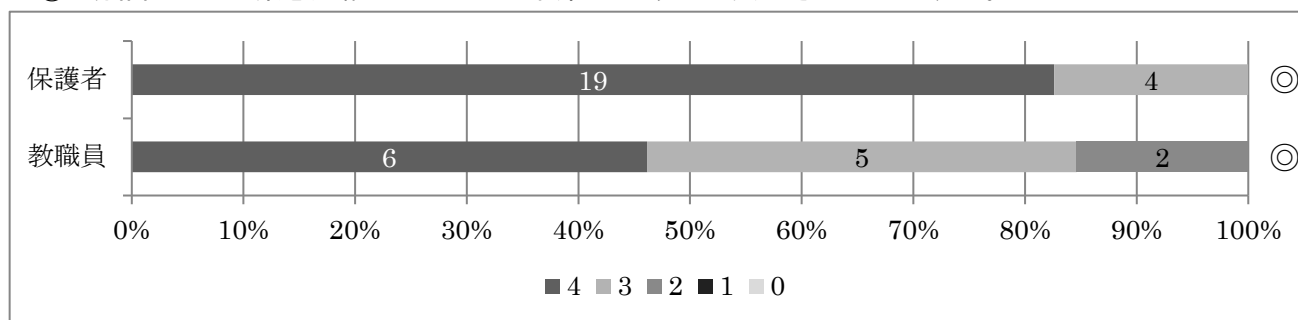
① 幼稚園の施設や遊具は安全でよく整備・管理されていますか。



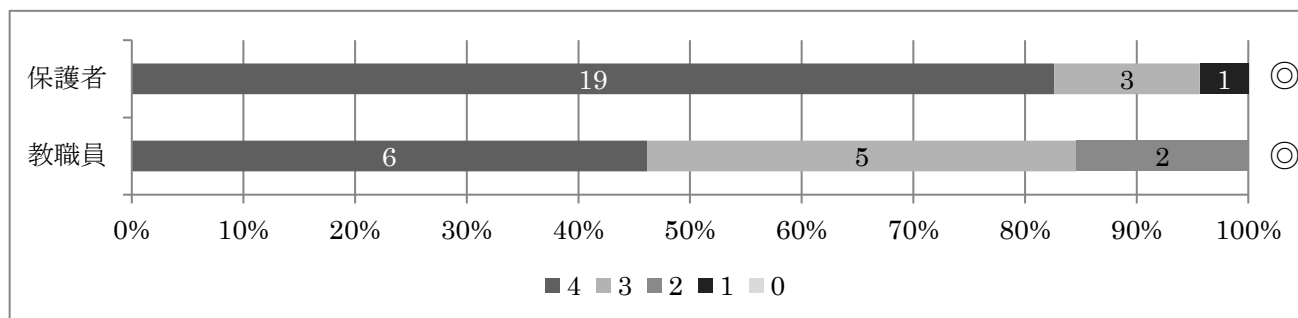
② 安全指導や避難訓練などが適切に実施され、災害に関する指導が行われていますか。



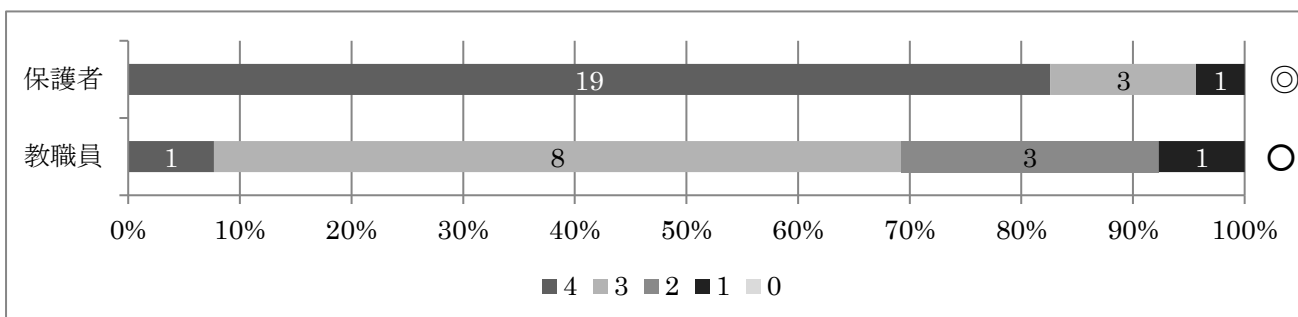
③ 幼稚園からの緊急連絡がスムーズに伝わるような工夫がされていますか。



④ 感染症や災害および不審者対応など安全対策において、安心して子どもさんを通わせることができますか。



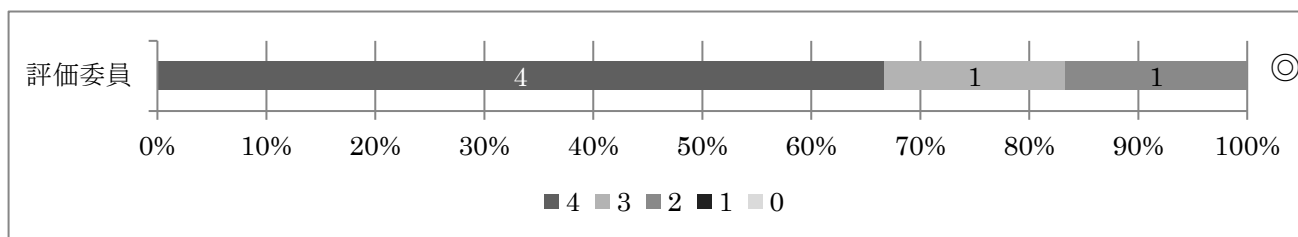
⑤ 勤務時間や業務内容等を守る中で、教職員の業務改善が図られていると思いますか。



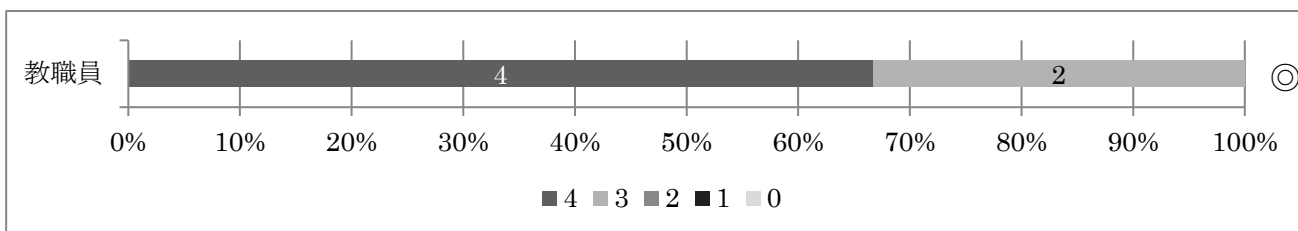
評定 A	体調不良や感染症の状況については園全体で気を付け、手洗い・うがい・換気と呼び掛けてきた。 災害や防犯の訓練等についても繰り返し取り組んできたことで、子どもたちも不安がることなく過ごせている。来年度は北黒田園舎に戻り、園舎増築により環境が変わる。新しい施設の使い方に慣れて安全に過ごせるようにしたい。保育所籍の子どもの長時間保育や土曜日保育も始まるので、より配慮していく必要がある。
-----------------	--

学校評価に関するアンケート

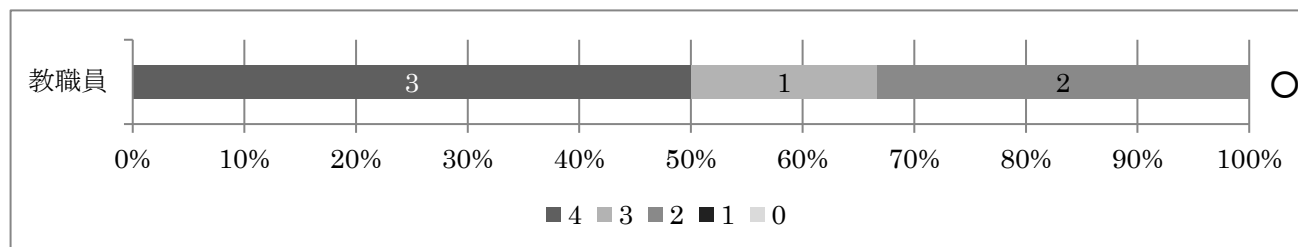
- ① 本園の生活や幼児の姿を通して、様々な人（学校評価委員さんを含む）との触れ合いを楽しんでいると感じられましたか。（学校評価委員のみ）



- ② 本園の幼児は【元気な子】【やさしい子】【のびのびあそぶ子】【ひとがすきな子】という『めざす幼児像』に掲げられている育ちが感じられますか。（学校評価委員のみ）



- ③ 園生活の様子がホームページを通して地域に向けて発信できていますか。（学校評価委員のみ）



評価 B	今年度は夏に開催している学校評価委員会が警報発表により中止となったため、全員での顔合わせができなかった。 学校評価委員の方々は行事等の機会に園を訪れるなどしてそれぞれの立場から園に関わってくださり、園生活の様子を見てもらうことはできた。しかし、保育内容・職員間の連携の在り方・子育て支援の具体策・情報提供の工夫などが課題として挙がってきている。それらに対して今後どのように取り組んでいくか、認定こども園として地域の方々とのつながりを大切にしながら考えていきたい。
-----------------	---

学校関係者評価委員からの意見

【良い点】

- 今年度2園が統合し、園児も保護者も関わり合いながら園生活が送れている。伸び伸び活動しており笑顔が見られ、異年齢の関わりを通して相手を思う優しい姿が育っている。4月より新園舎での園生活がスムーズに行われることを願っている。
- いつも子供たちが楽しそうに一生懸命に活動している様子が素晴らしい。来年度には新園舎への移動や学校給食の対応等で忙しいと思うが、再び松前小学校と近い距離になるので幼小で連携していきたい。
- 人権の花贈呈式を単なる行事に終わらせることなく教材化して保育活動に取り入れ、人権の花に込められた思いを地域に発信し、人と人がつながるうれしさや大切さが実感できるよう、地に足がつい

た効果的な実践ができていた。目指す幼児像である『やさしい子』『ひとがすきな子』が育っている。

- 人の痛みが想像できる、感じ取れる豊かな感性こそ、幼児期における人権感覚の芽生えの根っことなるものである。講演会の話にもあったが、今後も大切にしてほしい。
- 新園舎への引っ越しで大変だと思うが、全職員一枚岩となって子どもと保護者のために頑張っている。
- 子育て支援の面で親子サークルの開催などを再考し、積極的な発信により保護者のニーズに応えられる園運営が迫られているのではと思う。
- 評価の観点が漠然としている。
- 保護者の考えや声と教師の保育観、それに対する成果や課題等が明確化されていない。
- 一時預かりや弁当給食が取り入れられ、職員も大変だと思う。職員間の連携（縦・横）の在り方について知りたかった。
- 園便りやホームページを通して園生活の様子は発信できていると思うが、認定こども園としての幼稚園のアピールが低いように思う。選んでもらえる幼稚園として魅力ある活動内容（例えば学校給食や西の浜でのアート活動など）と画面構成を考えてみるのが大事ではないか。
- ホームページ以外で地域に発信する方法はないのか。

自由記述

認定こども園化に向けて本園の良さや特徴を生かしながら運営できるよう意見や要望をお聞かせください。

- 【良い点】 □保護者からの意見 ◇職員からの意見
- いつも子どもに向き合ってくれる。今後、園児数が増えても今のよう一人一人と向き合ってほしい。（複数）
 - 保育所や私立幼稚園にはない温かさがある。
 - 安心して預けられる家族のような場所だと感じる。
 - こども園になっても自主的に遊び考えられる子どもを育ててほしい。
 - 認定こども園となることでシステム上の変化はあるかもしれないが今と変わらず寄り添ってほしい。
 - 一人一人の特性をよく理解し柔軟に対応してくれることがありがたい。認定化し長時間保育になると大変だと思うがこれまで通り丁寧な関わりをしてもらいたい。
 - 職員が子どもにも保護者にも同じくらい親切に話しかけてくれたり様子を聞いてくれたりする。
 - 現状のまま、子どもにも保護者にも優しい園であってほしい。
 - 職員が子どもと保護者のメンタルもサポートしてくれるのでありがたい。
 - 筒井園舎に移動することになり初めは戸惑いがあったけれど、職員の対応に不満もなく子どももすぐに慣れた。今では「早く行くよ」というくらい楽しく通えている。
 - ◇ 統合という節目を迎えたが子どもも保護者も安心して過ごせている。

- 【課題・改善点】 ■保護者からの意見 ◆職員からの意見
- 園行事の内容や準備物等の文書、行事予定などスマホで見られるようにしてもらいたい。
 - 普段の保育の様子の一場面が見られるようにキッズビューで配信してはどうか。
 - 一時預かりもあるので、掲示板での情報発信を活用してほしい。
 - 就学に向けて3年間の生活を通して生活面や運動面について園と家庭でやりとりをする。一人一人に合わせて目標やできるようになったことが分かるようなカードがあると子どもも挑戦でき、努力する大切さが感じられたり、子どもの成長が見えたりする。特に年長組は小学校教諭の意見を取り入れた内容等があるとそれを目標にして家庭でも取り組める。
 - 登降園時に安全面の配慮や不審者対策の面から考えると門を開けたままにするのはどうかと思うので保護者自身が開閉するなど改善策を考えてほしい。
 - 登園に遅れても急ごうとしない家庭があるのはどうなのかと感じる。門が閉まっていないので不審

者が自由に入れる。時間を守ることも教育だと思う。

- 仕事の休みが取りづらいため運動会は日曜開催にしてほしい。
- 一時預かり利用料金の支払いを口座引き落としにしてほしい。
- 職員数増加に伴いPTA役員の負担が大幅に軽減されている。しかし、役員主体か職員主体かわからない行事があり、連携や情報共有ができていなかったのを改善すべきであると感じた。
- ◆ 行事等の職員間での情報共有がもう少しできればよい。(複数)
- ◆ 少人数ならではの遊びの広がりをもっと見られるとよい。他クラスとの行き来がもっとあってもよい。3学年で保育の内容(子どもの姿や育ち)について、もっと伝え合ったり学び合ったりできるとよい。(複数)
- ◆ 集団活動や異年齢の関わりを大切にしたい子ども集団が健やかに育てるよう支援する。異年齢が交わりながら遊ぶ中で互いに学び吸収し育ち合う充実した保育の実践を大切にする。(複数)
- ◆ 職員の行事に対する計画と見通しに甘さが感じられ、子どもへの負担が大きかったのではないかと。特に運動会や生活発表会では子ども自ら楽しんで活動に取り組む姿が見られなかった。保育内容についても新しいことを発信し子どもたちと共に教師も楽しむ姿があるのが幼稚園ではないかと思う。教師が何事にも見通しをもち意図的に関わる必要がある。今後は年間を通して継続的に活動に取り組めるようにする必要がある。
- ◆ 子育て不安を相談できたり親子で集えたりする場を確保する。
- ◆ 保護者のニーズだけではなく、本園として大切にしたい核をしっかりとって運営する。
- ◆ 勤務がシフト制になったため、各保育室に職員が一人はいるように声を掛け合っているが、例えば年中・年長組は合同で過ごすなどの対応が必要ではないか。
- ◆ 子どもの様子や家庭事情および職員同士の情報について朝礼や終礼で共有したい。その情報についても子どもや保護者に配慮し、職員室や会議室等で交換する。
- ◆ 一時預かりが始まり、職員みんなが手探りの中でどうすればよいか分からなかったり連携がうまく取れなかったりすることがあった。来年度からはさらに保育時間が複雑になり、土曜保育も始まるので職員の情報共有の在り方を工夫していく必要がある。保護者の不安や不信感につながらないようにしたい。
- ◆ 保護者同士であいさつを交わす姿はよく見られるようになってきたが地域の人とあいさつを交わしたり声をかけたりする姿は見たことがない。園から積極的に働きかけていくことが必要である。
- ◆ ICTシステムが導入され事務および保育業務の軽減を図ってきたが職員自身がこのシステムを使いこなせていないのが課題である。出欠確認だけでなく一通りのシステムについて知り、積極的に使っていかなければならない。
- ◆ こども園になるにあたり職員の意識を変えないといけない部分があると同時に『これまでに』にとられない『これからの幼児教育』を考えてほしい。何を大切にしなければならないのか自分自身が質の向上のために『学ぶ』意識をもつことが必要である。
- ◆ 職員が増えたので相手意識をもったコミュニケーションをとって対話し、互いに伝えることが大切である。
- ◆ 園の目指している教育・保育内容を日々の教育活動の中において職員間で連携して保育・教育を行うことができていなかった。日々の保育・教育の大切さを考えてほしい。そのためにそれぞれの職員の役割と質の向上を図ってほしい。